

上関原発予定地 中電に調査許可

山口県、3年連続

山口県は11日、中国電力が上関原発(同県上関町)の建設に向けて申請した海上ボーリング調査を許可した。中電は海底の活断層の有無を調べる。過去2度の調査はいずれも反対派の抗議を受けて実施できず、許可は3年連続となる。

中 16版 内政・総合 (3)

名で交付した。5月20日の申請内容をそのまま認め、7月7日から3カ月を占用期間とした。対象は予定地沖の約6千平方メートル。県河川課は「適正に審査し許可基準に適合した」と説明した。中電は、新型コロナウイルス対応で今月20日に見込まれる広島県などの緊急事態宣言の解除を待って準備に入る。山口県に示した計画では、海上で掘削位置を特定する作業は占用に当たらないとして期間前に始める。7月7日以降に大型台船を現場に据え、活断層の有無を調べる。上関原発準備事務所の内富恭則広報部長は「住民の理解を得ながら安全の確保に努める」と説明する。

原発の準備工事は、2011年の福島原発事故を受け、県や町が要請して止まったまま。上関原発を建てさせない祝島島民の会(約200人)代表の清水敏保町議は「本体着工のめどが立たないのに調査を認めるのはおかしい。監視活動をしていく」と話す。

日 享月 山口 25

上関原発を巡り 海域占用を許可

中電ボーリングに県

中国電力(広島市)が建設を計画する上関原発(上関町)の海上ボーリング調査の申請について、県は11日、必要な海域(約6千平方メートル)の占用を許可した。調査は7月7日から3カ月を予定している。一昨年と昨年も調査は許可されたが、原発建設に反対する町民の監視活動などでボーリング調査の準備作業となる測量などを断念している。測量などの担当者県外から派遣する必要があるため、広島などで新型コロナウイルスの緊急事態宣言が続く今月20日までは、2日間を見込む準備作業に中国電力は着手しない方針。

(川本裕司)

日 毎 地域 22 宣 宣

ボーリング調査 県が中電に許可

上関原発

中国電力(広島市)が上関町で進める上関原子力発電所建設計画で、県は11日、同社がボーリング調査を行うために必要な海域の占用許可を出した。期間は7月7日から3か月間。同社は原発の安全性を示すデータを補強するため、2019年、20年にも県から許可を得て準備を進めたが、いずれも抗議活動や悪天候で調査を中断した。3度目となる今年5月20日に申請を出していた。

日 毎 地域 23 宣 宣

原発の新規制基準に基づき原子炉設置審査に備えたもので、活断層の有無を調べる。田ノ浦海岸の西方約200メートルに作業台船を据え付け、水深約11メートルの海底を約60メートル掘削する。海域の占用期間は7月7日から3カ月で、占用を前に、掘削地点を定めるための測量などの準備作業に入る。

していない。怒りを感ずる」と話した。

【協山隆俊】